

信玄の存命中は奥平家は武田家に従う

(元龜三年)七月三十日 武田信玄、奥平定能に三河・遠江兩國内所領を安堵する。

八〇四 武田信玄判物写 松平奥平古文書写

定

一 東三河三方へ相渡上者、可停他之綺之事

一 西三河之内被拘来之本地不可有相違事

一 遠州之内旧領無異儀可被相拘候事

一 遠州あたこの郷之事

一 牛窪本領不可有相違候、但近年除菅沼新八郎之地之事

付新地之儀者、三方有談合可有配当之事

元龜三年壬申

七月晦日 信玄判

奥平美作守殿

(愛知県史 資料編11)

(天正元年)六月三十日 武田勝頼、奥平定能に三河国山中三村など、菅沼満直・同貞吉に遠江国の初老を安堵する。

八八九 武田勝頼判物写 松平奥平古文書写

定

一 遠州之内新所五百貫・高部之内百貫、并西三河之内山中七村山

形原分千貫文者、累年被拘来之由候間、可為奥平美作守計之事

一同州高部之内百貫文菅沼伊豆守、百貫文菅沼刑部丞、如年来可

被相拘候事

一同州高部之内百貫文菅沼伊豆守、百貫文菅沼刑部丞、如年来可被相拘候事

附、百貫野田領・百貫西郷領者、追而可成下知事

一 東三河牛久保領之内、菅沼刑部丞・奥平美作守雖被申旨候、三

方衆之事ハ相互ニ閣遺恨、無入魂而不叶儀候間、勘是非三方談

合上、牛久保領無増減可有配分之事

附、畢竟之附之倚学道附・鈴木口上之事

以上

六月晦日

勝頼判

菅沼右近助殿

同名刑部丞殿

奥平美作守殿

(天正元年)七月七日 武田勝頼の臣長坂光堅い、奥平貞能に三河国が沈静化したことを聞き、駿河国出陣などを伝える。

八九一 長坂光堅書状写 松平奥平古文書写

倚学被差越候条、山三兵令談合、如形相調差返申候、少々雖不合

御存分儀候、無御異儀御落着肝要候、其表静之由可然候、爰元之

儀御隠居様御煩如此筈二候、始穴山紋・典厩事、過半駿州へ出陣、

地利普請最中二も諸事令期来信之時候、恐々謹言

追而山三兵就御普請、駿州へ出陣之間無御拵候、道紋へも此

由頼入候、以上

七月七日

釣閑齋光堅判

奥平美作守殿 御報